

生徒会活動報告



前期生徒会メンバー紹介

会 長	原 田 翔 矢	安 城 西 中 学 校 出 身	会 計	神 谷 美 葵	矢 作 中 学 校 出 身
副 会 長	築 山 光 流	前 林 学 校 出 身	会 計	石 原 侑 京	高 浜 南 中 学 校 出 身
書 記	伊 藤 萌 夏	蒲 郡 中 学 校 出 身	渉 外	犬 塚 太 智	一 色 中 学 校 出 身
書 記	犬 塚 丈 瑠	六 ッ 美 中 学 校 出 身	渉 外	フ ク シ マ ア ケ ミ	新 川 中 学 校 出 身

2021年度前期生徒会は「Transmission」という方針のもと学園祭運営や日常の常任委員会活動、生徒会新聞の発行などさまざまなことに取り組んでできました。前期の最大の行事である学園祭も生徒の皆さんや先生方、たくさんの人の協力で成功させることができました。6ヶ月という短い間でしたがありがとうございました。

愛知県高校生ワクチン接種事業

保健室

昨年より続く「新型コロナウイルス感染症」が、2021年の夏に再び猛威を振りました。夏休み中も生徒、保護者様、教職員の皆様にご協力を頂きながら乗り切ることが出来ました。2学期も始まる直前に愛知県より、高校生のワクチン接種事業の通知があり、本校も参加しました。色々ご迷惑をおかけしましたが、百数十名の希望があり、9月下旬に始まり、10月下旬で無事に終了することが出来ました。「新型コロナウイルス感染症」が、これ以上広がらないことを願いながら「換気・手洗い・手指消毒」を続け、感染予防に努めていきたいと思ひます。ご協力宜しくお願い致します。



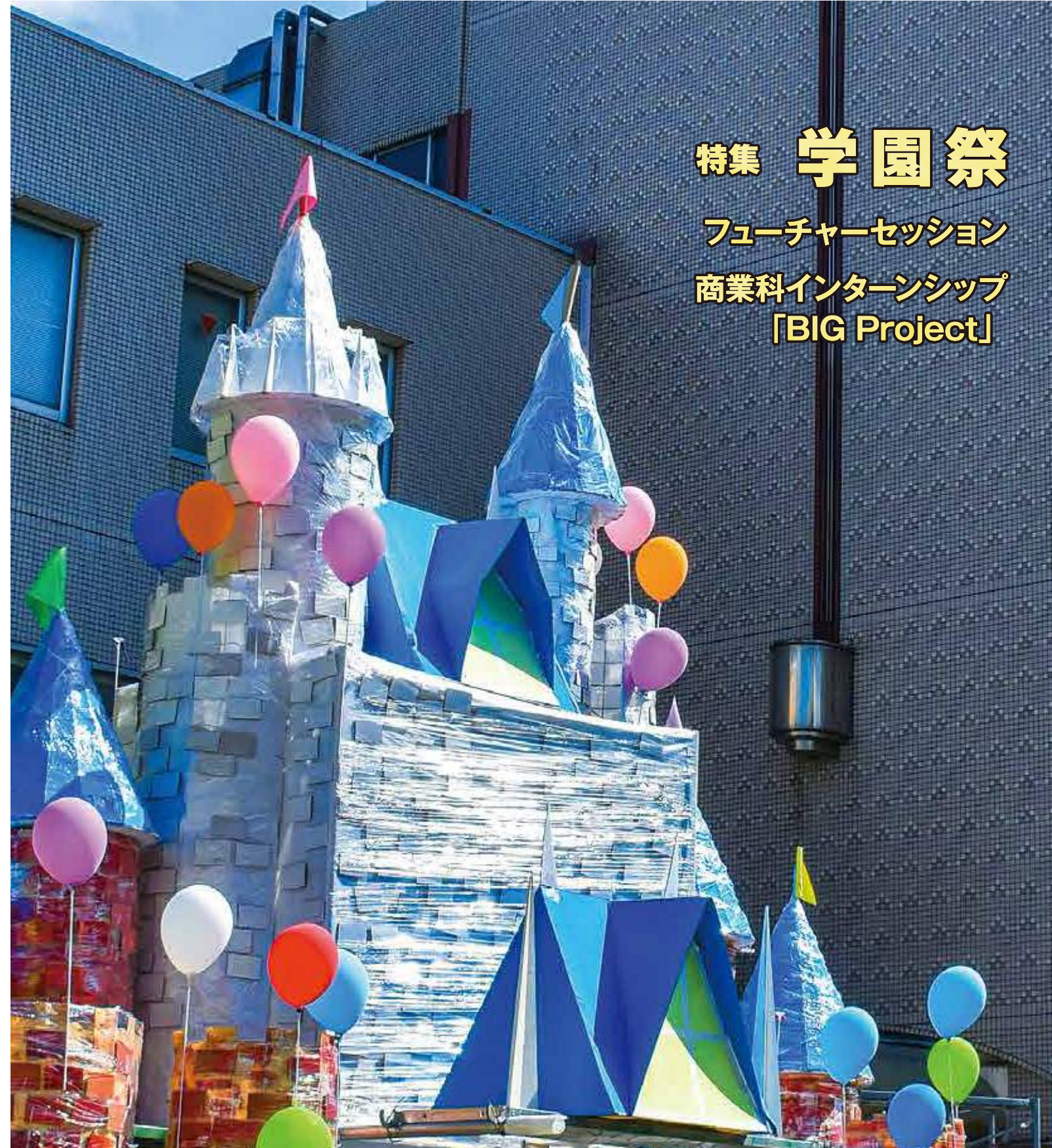
Ayagumo

Anjo Gakuen Highschool Newsletter

彩 雲

2021
vol.126
発行日/11月10日

特集 学園祭
フューチャーセッション
商業科インターンシップ
「BIG Project」





Contents

1	巻頭言
2-4	学園祭
5	国際交流部 フレッシュマンキャンプ
6	フューチャーセッション
7	商業科インターンシップ
8-14	部活動レポート
15	TOPICS

principal speech 巻頭言

You cannot change others or the past.
You can change yourself and the future.

「他人と過去は変えられないが、未来と自分は変えられる」

カナダの精神科医・心理学者 エリック バーン

コロナ禍の現在、ほとんどの人が色々な制限に対し少なからず、ストレスを抱え生活していると考えられます。

コロナ禍でなくても、自分以外の人を変えようとしたり、過去にいつまでも囚われていて、大きな不自然なストレスを抱え込んでいる人が多いのが人間界だと思うのです。

私たちは、どうしても不平や不満を言いがちです。それは大体、身近な人々への不満とか、現在の自分の置かれている状況とか、過去の不幸だとかについてです。しかし、そういったものは変わることはなく、不平を言ったところで、物事は改善されるわけではありません。

しかし自分が変われば、他人も変わるかもしれません。良いことをすれば、影響を受けるのが人間です。そうすれば、未来も変わるかもしれません。

人間行き詰まった時、この言葉を思い出し、自分の軸足を確かめながら、少しずつ前向きに進んでいけば良いと思います。

とかく新型コロナウイルス感染症の影響で、ストレスを抱えているあなたに贈る言葉・・・

安城学園高等学校
学校長 関 神一



学園祭

9/23(木)・24(金)



学園祭を終えて

前期生徒会長 原田 翔矢 安城西中学校出身

今年の学園祭は、厳しい新型コロナウイルスの感染状況の影響を受けながらも、父母のみなさんが模擬店を出してくださったり、エンターテイナー企画や、講評委員が生徒の取り組みを評価したりするなど昨年よりパワーアップした形で開催することができました。それができたのも、生徒一人ひとりが感染症対策を行ってくれたこと、学校全体で万全に対策したこと、何より、みんなの「学園祭を成功させたい!」という思いがあったからこそ、僕たち生徒会役員や学園祭実行委員は頑張ることができたと思います。

今年の学園祭テーマ「Grow Your Wings ～その先の未来へ～」には、何かに挑戦し、人と繋がり、視野を広げ、成長していくことや、狭い世界に閉じこもらず、高校生が、社会をつくっていくひとりの人間として、世の中に目を向けていくことを大切にしよう、という思いが込められています。このテーマのもと、どのクラスも、コロナでなかなか大人数での作業や長時間の活動が難しい中にもかかわらず、学園祭を盛り上げるために頑張ってくれました。生徒会・学園祭実行委員会も、このテーマに沿いながら、みんなで協力して学園祭をつくり上げました。どの部署でも、コロナという大きな壁をどう乗り越えるか考え、挑戦し、先生方にも協力してもらい、行動し日々成長している人たちの姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。

来年以降も、みんなで挑戦し協力して、今年よりもさらにパワーアップした学園祭をつくり上げて欲しいと思っています。また、安城学園には学園祭のように挑戦し成長できる場は沢山あるので、もっともっと輝く生徒が増えることを願っています。

学園祭を開催する意味とは

学園祭実行委員長 阿藤 明穂 朝日中学校出身

昨年に引き続き、感染対策をしながらかはありましたが、みなさんの協力です学園祭を開催できたことをありがたく思います。

今年は、制約が多い中でも「できることは何か」を考え、話し合いを重ねた結果、今年は講評・エンターテイナー企画、そして父母の方々による模擬店を復活させることができました。昨年、実施できなかったため、苦労することも多くありましたが、それをひとつひとつ解決していくたびに、実行委員が頼もしくなっていくのを感じる事が出来ました。

学園祭を楽しい行事にするということはもちろんですが、実行委員一人ひとりが成長する場という意味でも、今年はこれらの企画や取り組みを復活させることができ、本当に良かったと思っています。

私がいちばん近くで見てきたのは実行委員でしたが、各クラス、学年代表者会、生徒会など、学園祭にかかわる様々な場で、それぞれが成長する機会を設けられたのではないのでしょうか。あらためて、安城学園は、全校生徒が輝くことのできる場なんだ、と認識することができました。社会全体では、こういった行事の開催に対してさまざまな意見もある中で、学園祭を開催する意味はそれだったんだと思っています。

来年以降、感染対策はもちろんですが、今年浮かび上がった課題についても話し合い、考えながら、安城学園の伝統でもある学園祭をつなげていってほしいと思います。



学園祭実行委員会 テーマ企画 私たちは未来創造者 ～過去を知り 学び 伝え続ける～



テーマ企画では「憲法9条改正の賛否を問う模擬国民投票」「安城原発建設の賛否を問う模擬住民投票」「平和な戦後100年を迎えられるか・ネットアンケート」などを実施してきました。

今年は東日本大震災から10年経った福島第一原発事故の影響を知り、学び、伝えるための企画が考えられました。



勇太の桃の木のモデル
(福島県会津若松市)



村民を迎える国道の看板
(福島県飯館村)

勇太の桃～故郷をあきらめない～ あらすじ

原発事故から7年経った2018年の夏。小学1年生の勇太は祖父の墓参りをするために、父親の実家の村にやってきました。除染が進み、住民が帰宅し始めた福島県飯館村には、家と亡夫の墓を守る祖母妙子が待っていました。久しぶりの再会に勇太も妙子も喜びを隠しきれません。

勇太の両親は放射線を心配し、勇太に防護服を着せ、家に入ろうともせず、ギクシャクした空気が流れ始めます。その時、勇太の「おじいちゃんが植えた僕の桃の木をみたい」の一言で、一気に雰囲気緩和、家族は束の間の団らんを楽しみます。妙子は「勇太の桃」をお土産に持たせますが、途中の道の駅で、父親は桃をゴミ箱に捨ててしまいます。すべては勇太の将来のため。

数日後、妙子の所に友人夫婦が訪れ、「広大な農地を耕し続けることが、国や東電への抵抗だ。」と語ります。妙子は嫁から原発事故に関する裁判への協力を求められてきましたが、「もう年だから」と、ずっと応じてきませんでした。しかし、友人夫婦の言葉に心は揺れます。そこへ息子からのメールが届きます。それは勇太の夏休みの絵日記でした。しばらくその画と文を見ていた妙子。やがて自分も何かやってみようと思い始めます。

●キャスト	松尾歩乃佳(豊明)	勇太・小学1年生
	本村 美有(前林)	達広・勇太の父
	伊藤 萌夏(蒲郡)	早苗・勇太の母
	加藤由紀恵(安城西)	広江・隣家知人
	神谷 歩音(桜井)	義男・ "
	及川あすか(東山)	達信・勇太の祖父
	渡邊 由香	妙子・勇太の祖母
	安藤 彩乃(竜北)／神谷 美葵(矢作)	
●ナレーター	放送部 早乙女縁海(若園)	
●プロローグ朗読	放送部 伊藤なつき(安祥)	
●エピローグ朗読	鈴木 佑依(西浦)／牧野 珠里(岡崎南)／中元 颯南(安祥)	
●調査・道具・効果	柳瀬 真代	
●脚本	地頭 雅春	
●監督	毛受 由美	
●演出		()内は出身中学校

除去土壌が詰まったフレコンバッグや放射線量を計測するモニタリングポストの模型展示。原子力発電、放射能・放射線、除染などの調査研究。全村避難の福島県飯館村を舞台にした朗読劇「勇太の桃～故郷をあきらめない～」を全校放送。学園祭後に国語、英語、理科、地歴公民科で関連授業が繰り広げられました。



絵日記・小林 桜
(刈谷東)



絵日記・簡木 美帆
(篠目)

大事なことは「考え続けること」

「勇太の桃」脚本担当 国語科教諭 柳瀬 真代

国語科では、この朗読劇を観たのち、「おばあさんの心を動かした勇太の絵日記を書いてみよう」という授業を、全校で行いました。色鉛筆とクレヨン、iPadなどを使って、一人一人が小学1年生の勇太になり、1440枚の「絵日記」が揃いました。

祖母妙子が心を動かされる要因には「亡き夫への思いを勇太がわかっていること」「桃を捨てねばならなかった勇太の痛みと祖母への申し訳なさ」「それでも再び飯館村に行こうという勇太の決意」の3点が挙げられます。しかし、そういう読み取りができなくても、原発事故のこと、それに翻弄される人間たちのことを想像できれば十分だと思います。

大事なことは「考え続けること」です。日々の生活のなかで流して見て見ぬふりをしているものを、時々もしくは波状的に、立ち止まったり目を閉じたりして想像する。そして、それを繰り返す。人間の賢さはそういう所から生まれてくるのだと思います。

脚本のベースは岩波ブックレット「フォト・ルポルタージュ福島『復興』に奪われる村」です。著者の豊田直巳氏の文章から、勇太や祖母が生まれました。学園祭実行委員会テーマ企画とのタイアップ授業。教科担当からは「安城学園高校らしい国語学習が今年もできた。」と感想をもらいました。

楽しかったことは、一緒に考え、共感し、行動したこと

祖母 妙子役・学校司書 渡邊 由香

本格的に関わったのは「読書会」からです。『福島「復興」に奪われる村』には、福島の実状や国に対する批判など、2011年に日本におらず、東北にあまり縁のない私には、今まで知らなかった記述ばかりで、その衝撃は大きく、ただ、その現実には驚くばかりでした。生徒たちは風評被害に着目した意見を述べたり、「無関心」に立ち向かうには…と考えたり、あることをないことにしたい社会に心を痛めたりと、私より一歩先にジブンゴトとして捉えていました。

福島から愛知に避難してきた岡本早苗さん(原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜原告団長)を招いての学習会。避難生活や裁判の話聞き、避難の経緯、山林の除染の現状、故郷に帰れない人の思い、風評被害と闘っている人、国策として原発を続ける国に政策転換してまいと訴える人の姿が明確に見えてきました。背景がリアルに感じられ、脚本もすんなり頭に入ってきました。

夏に取材された福島県飯館村の実際の映像を観て、現地話を聞き、朗読劇の舞台を思い描くことができ、祖母妙子の人物像もはっきりしました。夏休みが明け、プロローグやエピローグも加わり、脚本も完成。「勇太の桃」のサブタイトル「故郷をあきらめない」にも鳥肌が立ちました。生徒たちは調査研究や展示物作成、朗読練習、録音と大忙しの毎日を過ごしていました。

曲や映像とともに流れる朗読劇は分かりやすいだけでなく、何かしら心に残るものがあつたはず。思いを伝えられたように感じました。また、前日に出来上がったギャラリー展示のクオリティは、想像していたものをはるかに越え、驚かされました。調査内容でも短時間でたくさんの情報を集め、丁寧にまとめる生徒たちの姿勢にも感心しました。展示方法などのアイデアは図書館でも活用できそうで、とても勉強になりました。

今振り返ってみると、たくさんの収穫しかありませんが、一番楽しかったのは、生徒たちや先生たちと一緒に考え、共感し合い、行動したこと。

今日は、あたりまえをありがたいと思う日。 プロローグ・エピローグ抜粋

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災。津波が多くの人の命、家屋、生活、日常を奪っていきました。死者15,900人、行方不明者2,525人。福島には国内54基の原発のうち10基が集中。福島第一原発事故の影響もあり、全国への避難者約4万人のうち70%、震災関連死では61%を福島県民が占めています。

物語の舞台・飯館村は自然に恵まれた美しい高原の村です。人口約6千人、安城市の約3倍の広さで、中心地は第一原発から40km離れています。国は4月、村全体を計画的避難区域に指定。わずか2か月で全村避難。避難指示が解除されたのは6年後の2017年3月31日。現在、村で暮らす人は1,480人、震災前の4分の1です。

世界で唯一の被爆国日本は「原子力の平和利用」「安全神話」を掲げ、原発建設に国策民営で突き進んできました。しかし、状況は東日本大震災で一変。今も福島第一原発の原子炉内には、溶け落ちた核燃料が手つかずのまま残されています。この10年で21基の廃炉が決まりましたが、9基が再稼働。事故後、原発寿命は40年に定められましたが、4基が20年の延長を認められました。その一方、太陽光発電の方が、発電コストが下回るという報道もあります。将来、日本がどんなエネルギー政策をとるのか、注目していく必要があります。

2013年、東京オリンピック誘致のため、安倍元首相は「フクシマの状況はアンダーコントロールされ、東京に悪影響を及ぼすことはない。」という主旨のスピーチをしました。しかし、未だに原発に近い双葉町、大熊町、浪江町など、自宅に戻れない「帰還困難区域」が残されています。「故郷に帰りたくても帰れない」人たちがいます。

事故直後、身ごもりながら4人のお子さんと愛知県に車で避難してきた

認められ感謝される人になりたい

学園祭テーマ企画 実行委員一同

福島第一原発事故から10年経った今年、改めて原子力発電のことや放射線、福島県の実状を知ることが大事ではないかと思い、内容を決めました。より多くの人に関心をもってもらえるように発表方法を朗読劇にしました。読書会や朗読劇を通して、原発事故はたくさんの方の人生や生活を奪った出来事であり、長く影響は続くものだとなりました。原発事故、放射能・放射線、除染などを調べました。学ぶことで知識も広がり、福島への愛着が深まる一方、改めて、これから先ずっと伝えていかなければならないことだと感じました。発表後、福島への関心が広がった感想が多く、うれしく感じました。

校内展示では、除去土壌が詰められたフレコンバッグや放射線量を測るモニタリングポストの模型を作りました。福島にはまだ数多く残されており、復興は道半ばで、苦しんでいる人が大勢いるということをわかってほしいという思いで作りました。説明文も簡素にまとめ、目に止まる配色やデザインを考えるなど、いろいろな工夫をしました。発想、創作、連携など、先生たちのファインプレーにも圧倒されましたが、先生たちに負けないように、全力で出来ることに集中しました。朗読劇や展示物などをつくりあげた事実は、自信をもたらしました。苦労も多かった分、仲間との協力や取り組む姿勢に自分自身の成長を感じることができました。「みんなに認められて、ありがとうと感謝されたい」という目標を、これからも追いかけていきたいと思います。

自分に出来ることは限られているかもしれませんが、福島のために何が出来たのかを考え、行動していきたいです。目を背けがちなことや世の中の矛盾に立ち向かって闘っている人がいることはすごいです。アンテナは自分で張らないと、与えられた物でしか入ってきません。だからこそ、自分で意識してアンテナを立て、考え続けることが大切だと思います。仲間の大切さを含めて、数多くのことに気がつかされた学園祭でした。

岡本早苗さんから、夏休みに話を聞きました。様々な事実を知った岡本さんは「被曝を避ける権利」が尊重される社会を目指し、国や東京電力と闘っています。私たちに「知ること、伝えること、必要なときに意見が言えて、行動することの大切さ」を語ってくれました。

飯館村は震災の年の夏休み、避難生活する中学生をドイツに派遣。「こんな時だからこそ」という村の意気込みで鳥肌が立ちました。村人たちの気持ちに後押しされ派遣された中学生は、どれだけ有意義な時間を過ごしたことでしょう。このプロジェクトの名は「未来への翼」。

飯館村は「まてい」という言葉を大切にしています。「まてい」とは「手間ひまを惜しまず」「心を込めて丁寧に」「時間をかけ、じっくり」という意味です。復興のシンボル 道の駅「まてい館」には、飯館産の米や野菜が多く並んでいます。米や野菜づくり、人や村づくりが「まてい」の心で進められているのです。

不幸なできごとが起きたから、不幸せになるとは限りません。震災に遭ったからこそ生まれた出会いや物語。離れたからこそ深まった故郷への思い。困難な状況でも、あきらめず、力強く生きてきた人々から学ぶことは多くあります。

飯館村は3月11日を次のように制定しています。
「今日は、あたりまえをありがたいと思う日。」
(テーマ企画担当教諭 地頭 雅春)



除去土壌が詰め込まれた
フレコンバッグの山の仮仮置場
連日中間貯蔵施設に搬出されている
(福島県飯館村)

安城学園 オンライン留学元年

今年度より、ニュージーランドの公立中高一貫校とオンライン交流が始まりました。今年はコロナの影響もあり、留学生を送り出したり受け入れたりすることができませんでしたが、さまざまな話題でオンライン交流ができたことで、コロナ禍でも世界とつながる感覚を味わえたと思います。特に東京オリンピックの話題が盛り上がりました。コロナ禍においてオリンピックを行うことの意味、日本のスポーツの紹介など、現地の高校生とともに熱気あふれる意見交流の場が提供できてよかったと思います。



ニュージーランドとの 国際交流プログラム始動

海外留学など多くの交流が制限された中で、生徒たちの異文化理解や国際交流経験を何とかして身につけさせたいと思い、本校の国際交流で計画・運営をしました。スピーキングテストやグループ活動、発表も取り入れることで、一般的な海外留学に近づけられるよう意識し、プログラム設計したところポイントです。参加者一人一人に合った学習ロードマップを作成し、それぞれのレベルに合ったレッスン内容で学ぶことができるため、生徒は比較的不ストレスなく乗り越えられたように思います。9日間にわたるオンライン留学で、合計40～50時間の英語学習に没入し、英語の力だけではなく、世界観を広げ、多くの知識を身につけられます。プログラムの最終日には、5人グループを作り、英語の劇を台本から作成させ、英文を暗記し、発表する活動を行いました。1つのグループに3学年を混在させたことによって、教え合い助け合う雰囲気がありました。こういったオンライン留学プログラムを、なんと「無料で」提供できるところに安城学園の思い切りの良さがあらわれているかもしれません。



フレッシュマンキャンプ

FC2021できることを模索して

1年学年主任 石田 桂

これまでのFCはフレッシュマンキャンプの略であり、入学したての1年生が長野県でのキャンプという宿泊行事を通して、高校生活での目標を定め、仲を深める行事でした。しかし、今年はコロナ禍において宿泊もバーベキューもバスに乗って県をまたぐ移動も、向き合って話し合うことも、みんなでワイワイと長野の大自然を駆け回ることでもできないと判断し、入学生には申し訳ない思いでいました。しかし【方法を考えれば学校で何かやれることはあるはず!】と知恵を出し合い、先生たちがチャレンジする姿を生徒が拍手で応援する心がほっこりする企画や、3年生のアシスタントが考えたクラス内レクリエーションを行いみんなで笑顔になったり、3年生の経験談を聞き高校生活に希望をもてたり、クラスの仲間とクラス目標を話し合うことなど、感染対策をしながらも1年生の新しい形の良いスタートとなる行事を行うことができました。



FCを経験しこれからの高校生活に希望をもって

1年6組 杉浦 菜月 (碧南南中学校出身)

1番心に残っているのは3年生の先輩の話です。私のクラスには杉浦大斗さん、手島美咲さん、大島よしのさん、川田沙果さんが話にきてくださいました。人と支え合うことの大切さや、人に感謝を伝えること、自分が苦しい中でも、やらなければならない時には立ち向かうこと、必ず一人ではないのだということなど、たくさんのお話を聞いていただき、勇気づけられました。

私も先輩方のように勉強はもちろんですが、自分がやりたいと思ったことは積極的に行き、目標を立てて、自分の力で頑張ったり、仲間と一緒に頑張ったりして充実した高校生活にしたいです。FCアシスタントの3年生の皆さん貴重な体験談、そしてクラスの仲が深まるようにレクリエーションを考えてくださりありがとうございました。

未来対話フューチャーセッション

2019年度より総合的な探究の時間で「フューチャーセッション（未来対話）」はスタートしました。

主体的・対話的で深い学びを重視し、現在の社会課題へ一歩を踏み出しています。

本年度は、安城の方々から直面する生の声を集め、4回のセッション（対話）を繰り返し実現可能な提案を目指しています。

学校と安城の飲食店を 繋げよう！

3年10組 相良 菜々美
(依佐美中学校出身)

今回、初めて真剣に1から社会の問題点をあげ、改善策を見つけていくということを行いました。今社会にとって必要とされる発想力がいかに大切なのか実感しました。企画の利益を第一に考えましたが、フィードバックで町の人たちの気持ちを支えるという視点を得ました。セッションを活発にできるように具体的な質問を投げかけ、多くの人の発想を取込みたいです。

音楽と一緒に 体を動かしてみよう

3年4組 平岩 由衣
(桜井中学校出身)

私はフューチャーセッションを通して、人前で話すことが少しずつできるようになりました。実現したい目標に向かってメンバーと対話し、まとめていくことで自然と話すことができるようになりました。私は、自分の意見を発信したり周囲の人からアドバイスをを受けたりして、新しい視点を持てました。最終セッションに向けて課題を昇華していきたいです。

元気に楽しく安城の旅！

3年4組 大島 よしの
(前林中学校出身)

最初の企画は、市民や私たちの「〇〇したい」という願いを叶えてくれる安城にしたいというものでした。セッションでグループごとに発表し合い、何度も意見交換し、具体化してきました。また、改善点がありますが、最後のセッションに向けて相談をしました。今後のセッションに向けて課題を昇華していきたいです。

元気に楽しく安城の旅！

3年4組 杉浦 輝
(桜井中学校出身)

街の活性化へ向けて、健康診断とスタンプラリーを掛け合わせた企画の実現を目指し、多くの人と対話し、協力し、取り組んでいます。当初他者との会話に不安を感じていました。しかし、地域の方々から頂いた課題は想像以上に深刻に捉え、自分事として早期実現を目指し授業後や休日の活用し取り組んでいます。市民に意義のある企画となるように、今後も主体的にフューチャーセッション（未来対話）をしています。



元気に楽しく安城の旅！の企画書	
作成日	2021年 7月 14日
作成者	安城学園高等学校 3年4組 大島 よしの
対象者	市民、観光客、地元企業、地元団体
目的	安城の魅力を伝えること、観光客の増加、地元企業の活性化
内容	健康診断とスタンプラリーを掛け合わせた企画の実現
実施方法	健康診断とスタンプラリーを掛け合わせた企画の実現
実施場所	安城の街
実施期間	2021年 7月 14日
実施費用	健康診断とスタンプラリーの費用
実施効果	健康診断とスタンプラリーの増加、地元企業の活性化
実施評価	健康診断とスタンプラリーの増加、地元企業の活性化

安城の子どもたちを笑顔に

3年3組 杉本 瑞希
(富士松中学校出身)

最初はターゲットが絞れず、現実味のない発表でした。セッションを繰り返す中で改善したいと思い、積極的に取り組むようになりました。世界の貧困をきっかけに、セッション3では安城市におけるこどもの貧困に辿り着きました。子ども食堂と児童クラブの合併を提案し、実施していきたいと考えています。今後広がっていく企画にできるよう考えていきたいです。

3年生に向けたコロナ対策

3年8組 鈴木 美南
(刈谷南中学校出身)

コロナウィルスの対策からはじまり、安城学園でできるコロナ対策へ発展させることができました。発表を重ねるごとに新たな対策を考え、ターゲットの絞り込みなど実現に向けた活動になっています。多様なニュースにも興味を持ちはじめ、伝え方の工夫も考えることができました。セッション4ではもっと濃い内容を発表できるようにしていきます。

安城空き店舗改革

3年9組 森部 なつみ
(富木島中学校出身)

10分間の中で自分たちの意見を伝え、セッションできるかを課題に取り組みました。最初は自分たちが伝えたいこと、提案したいことが不明確の中、10分間話そうという考えばかりでした。回数を重ね、フィードバックシートを読み、問題点が明らかになり、実現に向けたテーマを設定できるようになりました。最後のセッションも相手との対話を深め、10分間を楽しみたいです。

Let's enjoy English

3年1組 内山 統景
(知立中学校出身)

発表する中で気付いたことがいくつかあります。一つは聴衆を飽きさせない発表の大事さです。自分が時間をかけて工夫した文章や、資料を準備した上で、身振り手振りなど、発表の質を高めていくことが重要です。聴く人たちの関心を惹くためには、頭に入らないと思います。セッションでの土台となることに気づくことができたので、最後、聴いていて楽しく伝わりやすい発表を目指したいです。

商業科インターンシップ 「BIG Project」体験学習 活動報告

商業科教諭 久野 博史



商業科1年生102名を対象に、1学期から「課題研究」の授業で社会の仕組みについて学び、働くことへの理解を深める等の準備を進め、その実践の場として夏休み期間(7月下旬と8月下旬)にインターンシップ体験学習(2日間～3日間)を行いました。インターンシップ体験学習の目標は、生徒が、『地域社会に触れること、感謝される体験や成功体験を得ること、地域社会に還元すること』を主な目標としています。また、トヨタ生産方式「カイゼン」に代表されるようなマネジメント・サイクル『P D C A』の流れを理解して、それを実践することで、自己評価や自己改善ができる人材を育てること、様々な体験から学ぶことで、将来像を明確にすることを目標としています。

実習中は日報でマネジメント・サイクルP D C Aの各項目についての記録を取り、振り返り活動や改善活動に取り組みました。さらに、持続可能な社会を実現するために今、自分に何が出来るのかを考えながら課題解決に取り組みました。

インターンシップ体験学習を通して、生徒は「自分たちで一から考えることによって、仕事を終えた時の達成感や満足感を得ることが出来た」「『自分から』を目標に頑張ることで、いつも出来ないようなことを進んでやる事が出来た」等。働くこと・人と関わること・相手のことを思いやること・チームで協力して一つのことをやり遂げることを通して、多くのことを学び成長することが出来たと思います。コロナ禍の厳しい状況の中で受け入れをしてくださった企業の方々に感謝いたします。

【生徒の感想】

商業科1年1組 土屋 杏菜(東山中学校出身)

私は、3日間のインターンシップ体験を通して仕事への印象が大きく変化しました。受入先企業であるスノーピークでは社員の方が楽しく働くことの出来る空間をつくり、社員全員の仲が良く会社の堅苦しいイメージを一転させるような素敵な企業でした。私は、この3日間で自ら考えたプランを作成して発表を行いました。見る人に伝わりやすいインパクトの強いものを作成して発表することはとても難しかったです。インターンシップで学んだ多くのことを将来の進路選択に活かせるように努力していきたいです。



商業科1年2組 高原 姫愛(半田中学校出身)

私は、保育園のインターンシップ体験を通して様々なことを学びました。保育士は園児と楽しく過ごしていればよいものだと思っていましたが、それは全く違い、たくさんの園児一人一人に目を配りながら仕事をこなして園児たちを守るという、とても繊細で責任のある仕事であることを知りました。保育士の方が「園児たちの笑顔と成長が何より嬉しい」と話していたのがとても印象に残っています。これはどんな職業にも当てはまることで、常に責任感を持ち行動することと心の拠り所があればどんなことでも頑張れると思いました。今回のインターンシップでこれまで漠然としか考えていなかった職業について意識するようになり、将来の進路を考える上でとても貴重な経験になりました。体験を通して保育士という職業にも興味を持ち、選択肢の一つとして考えるきっかけになりました。



商業科1年3組 小林 桜(刈谷東中学校出身)

インターンシップで私が掲げた目標は「デザインをする時に心掛ける文字の組み方について知ることとその実践」です。インターンシップを通して多角的なアプローチを模索していくことが大切であると実感し、他にも多くのことを学びました。私が学んだことは大きく2つあります。一つ目は「デザインのチカラ」です。株式会社meetsの皆さんは色や文字の大きさ、書体、背景等のレイアウトを大切にしていることが伝わりました。これらのデザインのチカラには実際に紹介したいものの魅力や伝えたい想いを最大限に読者に届ける役割があります。インターンシップで学んだレイアウトを今後のプレゼンテーション等で自分の伝えたいことが最大限に伝えられるように活かしていきたいです。

二つ目はインターンシップでのインタビューで質問したmeetsの大屋さんが大切にしている言葉「昨日より今日、今日より明日」です。毎日大きなことを成し遂げようと難しく考えず、人それぞれの個性があって能力差があるので、自分のペースで少しずつ日々前進していくことが大切なのだと学びました。どんなに小さなことでも継続は力なりだと感じました。インターンシップで多くのことを学び、貴重な経験をさせていただき、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。株式会社meetsの皆さん、本当にありがとうございました。



部活動Report 2021年4月～2021年11月

ダンス部



We can escape!!

3年8組 都築 風歩 (雁が音中学校出身)
私たちはこの夏、出場した全ての大会で全国大会出場という目標を達成することができました。全国大会では入賞することができず悔しい気持ちもありますが、ハードなスケジュールの中、チームで支え合って最後までやり切ることができたこと、憧れの舞台に立てたことに達成感を得ることができました。 外部コーチの先生をはじめダンス部顧問の先生方、仲間や家族など多くの人のサポートがあったからこのような結果を残すことができた。今年残すことができた結果は来年度以降にも繋がる大きな結果となり、一人一人の大きな自信になったと思います。 たくさんの応援をありがとうございました。 今後もダンス部の応援をよろしくお願いします。

SWAG'X!!

3年7組 稲村 愛梨 (高浜中学校出身)
私たちは安城学園ダンス部初作られた、スモールチームとして約半年間活動してきました。全国大会への出場やダンスコンテストで準優勝などたくさんの結果を残すことができました。私たちが踊った2分半の作品は、曲や振り付け、構成、衣装まで全て0から自分たちで作上げた作品です。時には涙を流し、その分励まし合い、たくさんの汗を流して頑張ってきた成果だと思います。このような結果を残すことができたのは、友人や家族の支えがあったからです。たくさんの応援ありがとうございました。

合唱部

愛知県合唱コンクール金賞・県代表 中部大会出場



3年7組 細井 麻未 (矢作中学校出身)
8月8日に行われた愛知県合唱コンクールで金賞を受賞し、県代表で中部大会への出場が決まりました。中部大会は新型コロナの影響で録音審査に変わってしまいましたが、銅賞を受賞することができました。このような結果を得られたのも、いつも練習場所を貸してくださる先生方や他の部活動のみなさん、そして応援してくださる皆さんのおかげです。これからも私たちが大切にしている曲を、明るく楽しく歌えるよう全力で頑張っていきます。

ソフトボール部

愛知県選手権優勝 中日本総合大会出場



3年1組 前野 未玲 (桜井中学校出身)
私たちソフトボール部は、7月に行われた愛知県選手権で優勝し、8月に金沢で行われた中日本総合大会に出場することができました。

昨年より新型コロナウィルスの影響で、練習試合や毎年恒例の研修大会・遠征も無くなってしまい、チームのモチベーションを保つことが大変でした。総体終了後、チーム目標の再設定、やるべきことなどを話し合い、3年生を中心にチーム全員で出したアイデアをもとに雰囲気盛り上げながら日々の練習に取り組みました。愛知県選手権では、一戦一戦を丸一となって戦い、その結果優勝し、8年ぶりに中日本総合大会への切符を勝ち取ることができました。

これからも「たくさんの人から愛され、応援される部活動」を目指し、日々努力していきますので、これからも応援よろしくお願いします。

陸上競技部



全国 高校総体 (福井) 800m 2位入賞

3年6組
小山 愛結
(六ツ美北中学校出身)

届かなかった全国高校総体優勝の夢。ずっと目標にしていた全国優勝だったので悔しさはもちろんありましたが後悔はひとつもありません。予選・準決勝と実力を発揮し駒を進めた決勝。県大会から戦い続けてきたライバルはやっぱり強く差を大きくつけられましたがラスト100m5位から粘り這い上がっての2位。きっと1年生の時の私なら諦めていました。最後に成長した走りを自分でも実感し多くの人にその姿を見せることが出来たと思います。入学時は入賞すら程遠い選手でしたがこんなに大きな目標を掲げることが出来て挑戦できて良かったです。来年からは違う舞台にはなりますが全国優勝を目標に更に努力をしていきたいと思っています。



全国 高校総体 (福井) 200m7位入賞 4×100mR8位入賞

商業科 2年2組
小松 このみ
(大府中学校出身)

200mは追い風参考記録になる2m以上の強い風が吹く中での試合でした。準決勝では自己ベストを出せたものの、タイムで拾われ、ギリギリでの決勝進出になりました。初めての全国大会決勝進出に充実感、満足感を得たものの同じ県のライバルには負けてしまい悔しい結果にもなりました。

4×100mRでは同日に行われた個人での100mの悔しさもあり全部ぶつけようと全力で最後まで走りきることができました。チームの目標であったインターハイ決勝進出を果たすことができ、ここまで先輩方とバトンを繋げることできた達成感、全国の表彰台と一緒に登れたときのあの喜びは今でも忘れられません。

今大会で想像以上に全国で戦うということは厳しく難しいことがわかりました。これから多くの選手と戦えるようになり、来年また全国の決勝の舞台に戻ってこられるように、これまでに以上に頑張っていきます。



愛知県高校新人大会 走幅跳1位・100m5位 4×100mR5位・4×400mR5位

2年2組
生田 幸長
(矢作中学校出身)

初の県大会で優勝。1年前の僕からしたらとても想像できないことです。競技力も人間力も低く、一時期は辞めたい時もありましたが、誰にでも可能性はあるという先生の言葉を信じて必死に1年生の冬季を過ごしました。その成果もあり2年生の今年は、西三河新人戦で、100m 走り幅跳び 4×100mRで3冠を達成できました。3種目とも同じ日にあり、とてもハードでしたが前々から立てていた計画があったので冷静に対応でき、翌日の4×400mRでも2位とチームに貢献できました。県新人でも西三河での計画を参考に挑み、走り幅跳びでは7メートルの壁を超えて優勝。100mとリレー2種目も入賞し東海新人に進むことができ、とても嬉しく自信にもなりました。

東海新人ではさらなる自己ベスト更新し、来年のインターハイで活躍できるよう頑張ります。



国民体育大会中止→ 国体代替大会「東海フレンドシップゲーム」 砲丸投 優勝

1年11組
山田 真央
(御幸山中学校出身)

「高校1年生の国体で日本一になる」目標を掲げ入学し練習に励んできた私にとって、国体中止の報道は信じられず、目標を急に奪われどうすれば良いのか分からず、先が見えない日々が続きました。しかし三重県大会関係者の方々がかく選手のために活躍の場を>と国体代替大会を開催してくだり、全国ランキング2位の三重県のライバルと死闘の末、最終投擲で今季全国ランキング1位となるビッグスローで逆転優勝し、歓喜の涙を流すことができました。大会関係者の皆様、目標を失い不安な時に支えてくれた親、仲間感謝しかありません。感謝の思いを優勝という形で返すことができとても嬉しく思っています。これからも私の絶対目標である全国1位を目指して日々努力していきます。



令和3年度 陸上部の主な試合結果 (4月～9月)

5月	高校総体西三河予選	男子 総合2位 女子 総合優勝	4×100mR 2年 濱島月香(豊明栄) 2年 小松このみ(大府)
	高校総体愛知県大会	女子 総合2位	2年 榊原詠美(乙川) 1年 青山和奏(古知野)
6月	高校総体東海大会(のべ17種目出場)	女子 総合2位 女子 トラック2位 女子 フィールド2位	
8月	全国高校総体(福井)	ハンマー投 800m 2位入賞	9月 愛知県高校新人大会西三河予選
	3年 池田光太郎(東山)	ハンマー投	男子 総合2位
	3年 小山愛結(六ツ美北)	100mH	女子 総合優勝
	3年 原田愛音(富士)	1500m・3000m	9月 愛知県高校新人大会
	3年 村瀬心優(大府)	走高跳	2年 生田幸長(矢作)
	3年 磯部早良(矢作)	走幅跳・三段跳	2年 阿部慧吾(上郷)
	2年 村松 優(平坂)	100m・200m7位入賞	2年 阿部慧吾(上郷)
	2年 石川 凜(平坂)	砲丸投	4×100mR5位
	2年 小松このみ(大府)		1年 戸田源大(東浦北部)
	1年 山田真央(御幸山)		2年 福井篤輝(古知野)
	4×100mR 8位入賞		2年 榊原詠美(乙川)
	3年 中根葵(矢作)	3年 手島美咲(竜海)	2年 万前瑞葵(知立)
	2年 小松このみ(大府)	2年 濱島月香(豊明栄)	2年 生田幸長(矢作)
	4×400mR		2年 村松 優(平坂)
	3年 石原美空(東浦北部)	3年 飯田真衣(大高)	2年 榊原詠美(乙川)
	3年 小山愛結(六ツ美北)	3年 中根葵(矢作)	2年 山下美智乃(長良)
8月	東海選手権大会(長野)		2年 石川 凜(平坂)
	3年 磯部早良(矢作)	1500m4位・5000m2位	2年 小松このみ(大府)
	3年 渡辺柚那(矢作)	5000m8位	1年 坂田朋花(平坂)
	3年 竹田実紗(矢作)	5000m	1年 酒井菜胡(雁が音)
	3年 小山愛結(六ツ美北)	800m・1500m	1年 山田真央(御幸山)
	3年 杉浦花音(矢作)	5000m	
	2年 石川 凜(平坂)	三段跳	4×100mR3位
	2年 小松このみ(大府)	100m8位・200m5位	2年 濱島月香(栄)
	1年 坂田朋花(平坂)	5000m	2年 榊原詠美(乙川)
	1年 山田真央(御幸山)	砲丸投8位	4×400mR4位
			1年 川口莉絆(東山)
			2年 小松このみ(大府)
			2年 濱島月香(栄)
			2年 石川 凜(平坂)

女子バスケットボール部



明るく楽しく元気良く "日本一"に向かって

3年8組
山口 莉央
(岩倉南部中学校出身)

今年も新型コロナウイルスの影響により、大会や練習試合などが中止になってしまいました。また、チームで練習できる時間も限られた中、いま私たちがやるべきことをチーム全員で考えて毎日生活を送ってきました。この環境の中、みんなでチームの雰囲気盛り上げながら、明るく・楽しく・元気良く練習に励み、充実した日々を過ごすことができました。まずは、ウィンターカップに出場する切符を確実に掴み、私たちの目標である"日本一"に向けて、チーム全員で頑張っていきたいと思っています。

男子バスケットボール部



5年ぶりのインターハイ出場の喜び

3年6組
伊藤 龍之介
(東港中学校出身)

僕たちは先生に「弱くはないけど下手くそだ」と言われるチームでした。昨年、コロナ禍でインターハイがなくなり、悔しい思いをした先輩たちの思いを背負い、全国大会ベスト16を目標に今年も練習時間が少ない中、仲間と団結し練習に打ち込みました。愛知県準決勝では、相手チームとシーソーゲームで残り時間8秒1点差からディフェンスで守りきり、ブザーがなった瞬間、仲間全員で涙を流し喜びました。その後、全国大会に出場し1回戦敗退でしたが、この経験を活かしウィンターカップではチーム一丸となり1試合でも多く試合をすると言う目標掲げて、日頃ご指導くださる先生やコーチ、無観客で会場で応援出来ない家族に感謝の気持ちをコートで表現したいです。

アーチェリー部



全国選拔出場を目指して

2年3組
高木 梨緒
(竜神中学校出身)

秋季アーチェリー大会では、団体戦で女子が1位、男子が3位で入賞することができ、12名が県大会に出場することが決まりました。新型コロナウイルスの影響で夏の大会が中止となり、特に1年生にとっては初めての公式戦出場となりました。緊張して点数が出ず苦戦している子に声をかけてアドバイスし合い、全員が72射撃することができました。県大会ではチーム一丸となって協力し合い、より良い成績を残せるように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。

吹奏楽部



様々な想いをのせた金賞

3年4組 副部長
大島 よしの
(前林中学校出身)

8/29(日)に行われた第76回東海吹奏楽コンクールに出場し金賞を受賞しました。コロナ禍で思うように練習が出来ない中、実際に演奏する時以外はマスクを着用するなど感染対策を徹底して行いながら練習に励んできました。感染状況の悪化から大会の一週間前に動画での審査に急遽変更になり、努力してきた成果を会場で演奏で披露できないことに悔しさが込み上げ涙する部員も少なくありませんでしたが、今まで積み重ねてきたことを信じて全国大会出場に向けて練習を重ねました。そして2017年以来の金賞を受賞することが出来ました。

ここまで来られたのは応援してくださった方々のおかげです。支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも皆さんの心に届くような音楽を演奏していきたいと思っています。これからも応援よろしくお願いします。

コロナを乗り越え、夢の舞台へ

3年10組
山田 芽生
(碧南東中学校出身)

10月9日に東海マーチングコンテストが岐阜メモリアルセンターで行われ、11月21日に大阪城ホールで行われる全日本マーチングコンテストに10年連続(昨年は大会中止)出場することが決まりました。未だ続くコロナ感染対策で、マスクを着用しながら練習をしたり、音出しを止めてこまめに換気をしたり、安全を考慮して練習をしてきました。1人1人の対策意識のおかげで、感染者が出ることなく活動を続けられています。全国大会では例年通り観客を入れての本番になるため、直接演奏を届けられることをとても嬉しく思います。本番では僕たちの強みを活かした演奏をし、普段から活動を支えてくださる方々への感謝の気持ちを音に乗せて、自分たちの納得のいく演奏をしてきます。応援よろしくお願いします。



第31回日本クラシック音楽コンクール 全国大会へ

1年9組
酒井 靖河
(桜井中学校出身)

日本クラシック音楽コンクールの予選が8月20日に豊田市コンサートホール、本選が10月10日に中村文化小劇場にて行われ、12月1日に東京都ひらつかホールで行われる全国大会に出場することが決まりました。

中学生の頃から自分の力試しとしてソロコンに挑戦してきたので、この大会に出場することにしました。予選、本選ともに、納得のいく演奏ができなかったのが、最後の最後まで妥協せず練習を積んで全国大会に挑みたいと思います。また、僕が大切にしている「人の心に響くような演奏をする」を心がけ、自分らしい演奏が出来るよう頑張ってきたと思います。応援よろしくお願いします。





放送部

平和の尊さをいつまでも伝え続けたい

放送部顧問 鈴木 朋恵

7月24日に安城市文化センターで開催された『第20回やろまいかみんなの平和祭2021』で戦争体験の語り継ぎを行いました。この活動を放送部は6年前から続けています。戦争を体験された方から話を聞き、ただ伝えるのではなく、高校生の私たちがどう受け止め、どんな思いで伝えるべきか、生徒とよく話し合って朗読劇を作ります。関連する資料館に行って理解を深めたり、写真を提供いただいたりもします。今年は14歳で満州から引き揚げられた女性の話を聞きました。信じていたものが脆く崩れること、自分の人生を強く生きていくこと——生徒たちは戦争の悲惨さだけでなく、考えることの大切さ、命の尊さを感じとったようです。後日、今の時代が本当に平和なのか、平和をどう守っていくべきなのか話し合いました。その考えを詩にまとめ、映像作品の最後に朗読しました。詩の一部「私ならどうするだろう?」。生徒にはこの言葉を考え続けてほしいと思います。

箏曲部

伝統音楽・琴の音色で癒やしの時間を届けたい



3年5組 部長

小笠原 萌花
(桜井中学校出身)

箏曲部は8月には、私学連合音楽会（邦楽の部）への参加と、安城市の文山苑の素晴らしい和の庭園の前で「エトピリカ」、「亜麻色の髪の乙女」など5曲を演奏し、市民の方に日本の伝統音楽を楽しんでもらいました。知っている曲では一緒に口ずさんでくださり、皆さんに笑顔になっていただき嬉しかったです。老人ホームなどでの演奏の機会が減ってしまいましたが、日頃の練習の成果が発揮できとても良かったです。現在は、1月の県大会に向けて「さらし風手事」の練習に励んでいます。

学び探究部

英検・数オリ・調査探究



学び探究部顧問 北林 晃

英語セクションは英検取得に向けて学習をしています。同時に英会話にも取り組んでいます。数学セクションはこれから数学オリンピックに向けての勉強会をしていきます。探究セクションはそれぞれのプロジェクトを進めています。最近では市役所や地域の民間企業などと関わりながら、地域社会の課題解決に向けて活動を展開しています。その成果発表として本年度も高校生マイプロジェクトアワードに参加をします。それぞれの学びたい気持ちを大切にしながら、より地域と関わりながら活動の幅を広げていこうとしています。

クラブ大会試合結果一覧

◆男子バスケットボール部

全国高等学校総合体育大会 男子バスケットボール競技大会 出場
第68回東海高等学校総合体育大会 出場
全国高等学校総合体育大会 出場
西三河支部夏季選手権大会 Aブロック準優勝

◆女子バスケットボール部

第76回とこわか三重国体 東海ブロック 優勝
1年 西田美咲(郡山三) 村田優希(泉)
第75回愛知県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
愛知県大会 準優勝
U18 ALL AICHI CHAMPIONSHIP 2021
決勝リーグ進出(11/3時点)

◆卓球部

愛知県総合体育大会卓球競技西三河支部予選会
女子学校対抗 準優勝
女子ダブルス
優勝 3年:河合美結(益富) 3年:緒方天音(大塚)
2位 3年:鈴木涼香(末野原) 3年:藤原彩花(東山)
西三河高等学校卓球選手権大会
女子ダブルス 優勝 2年:中條真央(朝日丘) 1年:中山ひまり(松平)
3位 2年:福井美葉(若園) 2年:井本大奈(新香山)
愛知県新人体育大会卓球競技西三河支部予選会
女子学校対抗 準優勝

◆サッカー部男子

第100回全国高校サッカー選手権大会愛知県大会西三河予選 出場

◆サッカー部女子

愛知県選手権(皇后杯予選) ベスト8
全日本高等学校女子サッカー選手権 県大会ベスト8

◆硬式野球部

第74回愛知県高校野球選手権西三河大会 準優勝
第145回全三河高校野球大会 3位
第74回愛知県高校野球選手権大会 ベスト16
第9回愛知県高校野球1年生大会 出場

◆ハンドボール部

第75回愛知県高等学校体育大会ハンドボール競技西三河支部予選 3位
愛知県高等学校ハンドボール選手権大会西三河支部予選 3位
愛知県高等学校ハンドボール選手権大会 ベスト16
西三河地区予選ハンドボール選手権大会 5位
碧海高校生ハンドボール選手権大会 優勝

◆バレーボール部

第75回愛知県高等学校総合体育大会バレーボール競技の部 3位
第25回愛知県私立高等学校バレーボール選手権大会 5位

◆硬式テニス部男子

テニス西三河選手権大会(個人の部)
シングルス Eブロック優勝 2年吉永壮、Eブロックベスト4 堀田稜馬
愛知県高等学校テニス新人体育大会西三河予選 西三河ベスト8

◆硬式テニス部女子

テニス西三河選手権大会(個人の部)
個人戦ダブルス ブロック準優勝 2年神原・渡邊ペア
愛知県高等学校テニス新人体育大会西三河予選
個人戦ダブルス Dブロックベスト4 2年神原・渡邊ペア

◆アーチェリー部

愛知県高等学校アーチェリー選手権大会
2年 園田梨佐(安城西) 5位入賞
2年 加藤沙彩(岡崎城北) 6位入賞
秋季アーチェリー選手権大会
2年 園田梨佐(安城西) 3位入賞
2年 加藤沙彩(岡崎城北) 5位入賞
2年 本間 遥(福岡) 6位入賞
女子団体1位
男子団体3位

◆バドミントン部

新人戦バドミントン全三河支部予選 学校対抗戦
女子 3位 男子 ベスト8

ダブルス

女子 3位 押切涼乃(大府西)・山脇杏梨(金屋)
ベスト8 大西麻由(吉良)・坂田彩乃(大府北)
男子 ベスト8 高田龍聖(安城南)・北岡大成(翔南)
ベスト16 三成有翔(明祥)・稲垣優人(東山)

シングルス

女子 3位 押切涼乃(大府西)
ベスト8 山脇杏梨(金屋)
ベスト16 大西麻由(吉良)・坂田彩乃(大府北)
男子 ベスト16 高田龍聖(安城南)

新人戦バドミントン愛知県大会

学校対抗戦 女子 ベスト8
ダブルス 女子 ベスト16 押切涼乃(大府西)・山脇杏梨(金屋)
男子 ベスト16 高田龍聖(安城南)・北岡大成(翔南)
シングルス 女子 第3位 山脇杏梨(金屋)

◆ソフトボール部

第75回愛知県高等学校総合体育大会(県大会) ベスト8
愛知県高等学校女子ソフトボール選手権大会 優勝
第54回全三河高等学校ソフトボール選手権大会 2回戦敗退
第65回中日本総合女子ソフトボール選手権大会 1回戦敗退
第32回中部日本私立高等学校女子ソフトボール選抜大会1部トーナメント出場
愛知県高等学校新人体育大会西三河予選 第3位
愛知県高等学校新人体育大会 ベスト16

◆ダンス部

スモールチーム

全国ダンスパフォーマンスコンテスト2021
(中高生一般スペシャル部門)全国決勝大会 準優勝
第9回全国高等学校ダンス部選手権 全国決勝大会出場
第14回日本高校ダンス部選手権
(夏の公式全国大会) 東海・北陸大会入賞 全国大会出場
第11回全日本高等学校チームダンス選手権大会 中部予選第5位
USA Japan チャレンジング&
ダンス学生選手権大会2021 WEST (オープン部門) 優勝

ラージチーム

全国高等学校ダンスドリル選手権大会2021
(HIPHOP女子部門Large編成)東海大会第1位 全国大会出場
第9回全国高等学校ダンス部選手権 全国決勝大会出場
第14回日本高校ダンス部選手権
(夏の公式全国大会) 東海・北陸大会第3位 全国大会出場
第11回全日本高等学校チームダンス選手権大会 中部予選第2位 全国決勝大会出場

◆吹奏楽部

愛知県吹奏楽コンクール西三河南地区大会 金賞(プライマリー部門)
2021年度中部日本吹奏楽コンクール愛知県大会 金賞
愛知県吹奏楽コンクール 金賞
愛知県吹奏楽コンクール代表選考会 金賞(東海大会出場)
東海吹奏楽コンクール 金賞
愛知県マーチング大会 東海大会出場権獲得(シード)
東海マーチングコンテスト 金賞(全国大会出場権獲得)

◆弦楽部

第10回日本学校合奏コンクール2021 全国大会グランドコンテスト 出場
第10回日本学校合奏コンクール2021 全国大会ソロ&アンサンブルコンテスト
ソロ部門 齋藤 麻生(田原)
アンサンブル部門 弦楽三重奏
弦楽五重奏
弦楽アンサンブル 出場

◆合唱部

第61回愛知県合唱コンクール 金賞 県代表
第74回中部合唱コンクール 銅賞

◆書道部

第20回全国書道展 準大賞(1年8組矢部友里愛)
他、優秀賞4点・秀作賞4点など
第68回愛知県私学美術展 第二会場 作品出展